

令和3年度 第4回横浜市創造界限形成推進委員会

次 第

日 時：令和4年3月18日（金）
10時00分～12時00分

場 所：18階共用会議室みなと5

議題

- 1 審議事項
 - (1) 令和4年度事業計画及び事業評価軸について
 - (2) 旧第一銀行横浜支店の公募について
- 2 その他

資料

- ① 次第
- ② 【資料1】委員名簿
- ③ 【資料2】前回議事録（令和3年11月24日開催分）
- ④ 【資料3】令和4年度事業計画及び事業評価軸
- ⑤ 【資料4】旧第一銀行横浜支店運営団体公募要項概要

委員名簿

	氏名	所属団体(役職名)		出欠
委員長	野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	○
副委員長	六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	○
	遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	○
	岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	○
	菅野 幸子	アーツ・プランナー／リサーチャー		○
	治田 友香	関内イノベーションイニシアティブ(株)	代表取締役社長	○
	日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	○
	簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	○
	山口 真樹子	ゲーテ・インスティトゥート東京	コミュニケーション・広報	欠席

令和3年度第3回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和3年11月24日（水）14時00分～16時00分
開催場所	横浜市役所WEB会議（事務局設置：横浜市役所 18階共用会議室 みなと10）
出席者	野原委員長、六川副委員長、遠藤委員、岡本委員、菅野委員、治田委員、簗谷委員、山口委員
欠席者	日沼委員
オブザーバー	恵良氏
開催形態	一部非公開
議 題	<p>1 審議事項</p> <p>(1) 旧老松会館の公募結果について</p> <p>(2) 旧第一銀行横浜支店の公募について</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 拠点運営の全体的な方向性についての市の考え</p> <p>(2) 令和4年度以降の事業評価について</p> <p>3 その他</p>
決定事項	
事務局	<p>【開会】</p> <p>○令和3年度第3回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。</p> <p>【資料の確認】</p> <p>○配付資料の確認が行われた。</p> <p>【定足数の確認】</p> <p>○委員9名中8名が出席しており、委員会の成立となる。</p> <p>【会議の公開・非公開】</p> <p>○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により原則公開となるが、審議事項(1)及び(2)については、同条例第7条第2項に基づき非公開とするが、よろしいか。</p> <p style="text-align: center;">（了承）</p> <p>審議事項（1）：旧老松会館の公募結果について</p> <p><事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。></p> <p>審議事項（2）：旧第一銀行横浜支店の公募について</p> <p><事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。></p> <p>報告事項（1）：拠点運営の全体的な方向性についての市の考え</p> <p><事務局より説明が行われ、議題について意見交換が行われた。></p>

<p>恵良氏</p>	<p>○創造界限拠点が頑張ってきている一方で、担い手の集積も進んできました。その結果として、自律的に発生してきた新たな活動する拠点が創造界限に生まれています。こうした動きをどう認識して整理するかということ、現行の6つの拠点とともに考えることが重要になると思います。また、企業やクリエイターの集合の中、そして大学の中にも拠点的な活動が生まれて来ることも頭に置いて考えるべきでしょう。また、現行の創造界限拠点は、この時期に改めて場所の価値を再確認する必要があります。同時に、建物の老朽化が進んでいる拠点もあり、活動に対する建物や内部空間の適性などを踏まえた今後のあり方が論じられると良いと思います。ACYの活動も考えますと、新旧の都心という大きなフィールドの中で、何が創造界限拠点と新たに自律してきた拠点的な活動をACYにつなげることが効果的かを見ていくことも大切と感じています。そうすると、多分、拠点の場所の再構成やネットワーク構築の議論、創造都市の支え手のつくり方、これらを同時に解くことが創造界限拠点のこれからのあり方の可能性を広げることにつながると感じています。</p>
<p>菅野委員</p>	<p>○創造界限を考えるに当たって、今はもう完全に第2段階に移行していると思っています。最近ではカルチュラルキャピタルという言い方もしているんですけども、あるいはカルチュラルリソースというべきか、横浜市全体の文化的なポテンシャルというものがあるに上がってきているということは、誰もが外からも見て分かっていると思います。そういったことも留意した上で、改めてこの創造界限の位置づけというものを再検討していかないと、次の方向性はなかなか見えにくいのではないかと思います。むしろ、いろいろな可能性が高まっているところに、それをプラスの要因として取り入れていった上で考えていかないと、これからの世の中にはついていけないということが起きてくるのではないかと思います。</p>
<p>治田委員</p>	<p>○今の拠点に関して、運営事業者それぞれが持っているものを最大限活用して拠点を運営しようとしている一方で、規制とか決まっている枠組みでやってくださいという中でかなり苦戦している部分も見えますので、行政側としてできることもいろいろあるのではないかと思います。そのあたりももう少し議論できるといいのかなと思いました。あとは、こういう方向性なのではないかというものが、委員それぞれの考えもあるので、皆さんで共通の言語化をしたほうがいいものについては、考えていきたいなと思いました。一方で、稼ぐところは稼いで、公益的な文化をどう維持していくかというところがあって、そこがまだちょっと理念的かなと。それから、行政としての指標は、専門分野が分かっている人たちからの評価のほか、市民性のある評価があるため、そこが評価として入ってくるといいのかなと思いました。</p>

	<p>野原委員長</p> <p>遠藤委員</p> <p>事務局</p> <p>野原委員長</p> <p>事務局</p>	<p>○ルールに関しては、例えば文化財の話というのは、むしろ横浜の大事な資産をちゃんと守るためのルールでもあるので、何を大事にして、何の価値をちゃんと大切にしながらそれを使っていくかというところだと思います。できること、できないことを洗い出していくと、できることはまだあるのではないかということだと思いますので、そこはぜひ検討していただきたいと思います。</p> <p>○まず方向性としては、創造界限全体も含めて少し検討いただいて、その中で拠点はどう立ち居振る舞っていくか、そういったところを併せて検討いただくということなのではないかなと思っていますので、そのあたりも含めた整理をお願いできると助かります。</p> <p>報告事項（２）：令和４年度以降の事業評価について</p> <p><事務局より説明が行われ、議題について意見交換が行われた。></p> <p>○評価と次の年度の計画をリンクさせるというのは、やっぱり大事なポイントだと思うんです。具体的な作業として考えたときに、事業評価と事業計画を同時に作ると作業量が多くなってしまうのでということが危惧されるため、何か工夫が必要かなということを感じています。</p> <p>○現在も各拠点が年度の振り返り報告をしていますので、基本的にはその内容が反映されるものと考えています。作業量については、調整しながら進めさせていただきたいなと思っております。</p> <p>○これで報告事項は以上になる。</p> <p><事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュールなどについて、事務連絡が行われた。></p> <p>○これをもって、令和３年度第３回横浜市創造界限形成推進委員会を終了する。委員の皆様、長時間ありがとうございました。</p>
<p>資 料</p>	<p>①次第</p> <p>②〔資料１〕委員名簿</p> <p>③〔資料２〕前回議事録（令和３年９月２２日開催分）</p> <p>④〔資料３〕旧老松会館（急な坂スタジオ）運営事業者選考報告書</p> <p>⑤〔資料４〕旧第一銀行横浜支店の公募について</p> <p>⑥〔資料５〕拠点の方向性について</p> <p>⑦〔資料６〕令和４年度以降の事業評価について</p>	
<p>特記事項</p>		

令和4年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	初黄・日ノ出町文化芸術拠点	基本方針	◆安心・安全のまちづくりを最優先に位置づけ、以下の理念を基に文化芸術によるまちづくりを行う ①文化芸術の力で新しい価値観を産み出し、地区の活性化 ②NPO法人を中心に、地域、企業、行政、警察、ボランティア等を巻き込んだ新しいスタイルの事業運営 ③産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開 ④大学、研究機関等との連携により、まちの活性化、地域再生のモデル地区として全国に発信する
運営期間	令和4年度		
運営団体	黄金町エリアマネジメントセンター		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価			実施結果	仮評価	
評価軸				自己評価	委員会評価
1	全体事業収支	1 全体事業収支			
		2 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率			
2	事業収入	1 黄金町バザール・企画展・イベント等収入(チケット収入等)			
		2 黄金町芸術学校(受講料)			
		3 高架下スタジオ利用料			
		4 その他物件家賃収入			
		5 ギャラリー等販売手数料			
		6 その他(助成金、協賛金等)			
3	施設の維持管理状況	1 施設の利用状況(管理施設数、稼働状況)			
		2 施設の管理状況			
		3 施設の修繕・改善状況			
		4 安全対策・危機管理体制			
4	運営体制・労務管理	1 スタッフの配置状況(役割・人数)・勤務体制・待遇			
		2 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
5	広報・発信	1 地域再生のモデル地区としての発信			
		2 各事業の効果的な広報活動・情報発信			
		3 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
		4 事業のアーカイブの作成、発信(AIRアーティストのその後の活動状況の見える化を含む)			

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	仮評価		
評価軸	自己評価				委員会評価		
1	文化芸術の力で新しい価値観を生み出す	1	アーティストへの滞在・制作・発表の場の提供 アーティスト支援の充実が図れているか 他のAIR事業との差別化が図れているか	AIR事業 長期・短期レジデンス/共用施設の運用/中間面談/アーティストミーティング/作品展示・販売協力/勉強会実施/広報協力 <目標>入居者数(長期)60組(短期)20組、施設整備数8件			
		2	国際的なネットワークの強化	国際交流事業 レジデンス交換プログラム/海外展示/東アジア文化都市交流/海外アーティスト紹介/海外向け情報発信 <目標>交流団体5団体			
		3	年間を通じた賑わいづくり 日常的にアートに触れる機会の創出	展覧会・イベント 黄金町春のバザール(企画展示、商店会連携企画など)/黄金町夏休み子どもバザール(ワークショップ、発表展示)/黄金町秋のバザール(国際AIR、イベント等)/黄金町冬のバザール(企画展示、イベント等) <目標>年間6企画 <目標>来場者数10,000人			
				金町芸術学校 <目標>講座数10講座、受講者数100人			
4	販路拡大	made in Koganecho 商店での作品展示/コミッションワーク/パブリックアート企画制作/ホワイトスペース整備/オンラインショップ運営					
2	地域、企業、大学、警察、行政、ボランティア等と連携した事業運営	1	地域団体、周辺施設等と連携した事業を実施できているか	のきさきアートフェア <目標>開催回数4回			
				黄金キッチン、日ノ出スタジオ運用			
				企業協賛の獲得、企業連携の取組			
				バザールサポーター			
3	産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開	1	地域を活性化させるエリアマネジメントが行えているか	エリアマネジメント検討 関係者との継続的な協議/マスタープランの提案			
				はつこひ市場開催支援			
				地域活動支援 大岡川水上劇場、運河パレード等の地域イベント支援/黄金町BASE支援/東小放課後キッズとの連携			
				初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会事務局運営 定例会運営/まちのルールづくり/防犯パトロール/Kogane-X Lab活動支援			

総評	【市の取り組むべき事項】
----	--------------

これまでの総評	R2	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化により、様々な影響を受ける中で、リモートでの実施やオンライン販売など、様々な工夫・努力により事業を進めてきたことは評価したい。 ・一定の成果が上がる中で、次の10年間でどのようにやっていくのか、方向性を地域の施策として定めていく必要がある。 ・その際に、これまで絡めてこなかったテーマ(ex.食文化など)を新たな基軸として打ち出すことも検討してほしい。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの着実な事業の実施により生み出した成果は高く評価できる。地元企業等との連携については、さらなる発展が期待できる。今後は、周辺地域との連携も意識し、パートナーを広げていけると良い。 ・アーティストインレジデンス事業は、日常の表現を支えるものと、バザールなどイベント系のもとのバランスよく実施できており、黄金町の特色を出せている。これまで培った海外とのネットワークを途切れさせることのないよう、オンライン等への展開など、柔軟な対応が望まれる。 ・黄金町の取組は世界的にもモデルケースになり得るので、しっかりと取組をアーカイブして発信すること、次の取組に生かしていくことを期待する。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで10年以上、着実に取組を継続してきたことで、収益面以外の成果(文化の耕し)が出ている。 ・レジデンスアーティストの海外での展示機会が増えているほか、卒業時には周辺物件を紹介する等、積極的な一貫した支援ができています。実際に周辺に残るアーティストが増加傾向にあることは高く評価できる。 ・多岐に渡る業務をこなしているが、マンパワーに見合った事業計画か、成果が出ているか、収支のバランスがとれているか、事業ごとに適宜振り返り、改善・整理していけると良い。
	H29	<ul style="list-style-type: none"> ・Tinysの開設は、NPOのこれまでの取組実績によるところが大きい。これによりスタッフの意識や組織力が向上していることが伺える。今後は本実績についての効果的なPR等により、民間投資をさらに誘導していけると良い。 ・屋外、特に川沿いの作品展示やアートクルーズは、市民の関心を集める良い事業であり評価できる。 ・アーティストの出口(育成・ステップアップ)について戦略を持ってプロモーション活動をすることが望まれる。

令和4年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	急な坂スタジオ	基本方針	①アーティストが作品を「つくる」支援と、その体制を「ととのえる」支援【サポートアーティスト制度の拡充】 ②次代を担う人材(アーティスト・観客双方)が出逢う場所【学びと交流を目的とした事業展開】 ③誰もが安心して使える稽古場【状況に応じて柔軟な利用を可能にすると同時に安定した稽古場経営の徹底】 ④新しいディレクターの育成【アーティストを支える人材の世代交代による、10年先を見通す新体制の確立】
運営期間	令和4年度～令和9年度(1年目/5年間)		
運営団体	特定非営利活動法人アートプラットフォーム		

【事業計画及び事業評価】

I 運営/経営評価			実施結果	仮評価	
評価軸				自己評価	委員会評価
1	経済的な基盤の確立	1 全体事業収支			
		2 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等/その内訳と比率)			
		3 施設の管理運営に係る費用(管理運営費、人件費で事業に係る経費を除いたもの)に対する年間利用料金収入の割合			
2	施設の運営・管理	1 施設の利用状況(部屋別稼働率・延べ来館者数及び利用団体数)			
		2 施設の管理状況			
		3 施設の修繕・改善状況			
		4 安全対策・危機管理体制			
3	運営体制・労務管理	1 常勤スタッフ数と役割分担(職能)・勤務体制			
		2 年間総支出に占める管理運営費、人件費の割合(常勤スタッフの報酬と待遇等)			
		3 スキルアップ・モチベーションアップのための取組状況			
4	広報・情報発信	1 各事業の効果的な広報活動・情報発信(利用者・市民に向けたものを含む)			
		2 市の施策に協力した創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
		3 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性/政策達成評価		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	仮評価	
評価軸	自己評価				委員会評価	
1	舞台芸術を中心とした創造活動の場	1	創作の場の提供 すべての利用者にとって 快適・安全で使いやすい・ 借りやすい稽古場運営を 行っているか	状況に応じた稼働率の設定・達成 新規広報媒体の検討 ハラスメント対策への取り組み		
		2	創造活動への支援 快適な創作活動を行うた めに必要なサポートを行 うことで、アーティスト達 が育ち・続けていくための 創造環境が整備されてい るか	サポートアーティスト 急な坂プロデュース 新規(若手)利用団体へのサポート 人材育成プログラム(急な坂アトリエ、相談室 plus) サイトを活用した取組(劇評連載、アーカイブ)		
2	舞台芸術を中心とした創造活動に関わる人材の育成	1	アーティスト、観客、批評家など、様々な人材が集まり、学び、交流する場となっているか	ワークショップなど市民に開かれた取組 様々な人材が集まり、学び、交流する場として機能しているか 新たなディレクターを選考・育成し、次世代への継承を図れているか		

総評		【市の取り組むべき事項】
----	--	--------------

これまでの総評	R2	新型コロナウイルス感染症対策を迫られる中での運営であったが、「ききみみ」などの新たな取組により稽古場としての活動以上の付加価値をつけている。アーティストの面でもきちんと内容を創り出している。首都圏を中心とした演劇界の中につながっていると感じる。
	R1	・限られた予算と人員の中で多くの事業を丁寧に実施されている。若手の支援をはじめ、稽古場ならではの企画や、コロナで人を集められない中で状況に応じた企画ができていく点が評価できる。 ・子供向けプログラムについて、子供に関心があるアーティストと協力しながら企画を組み立てるなど、柔軟な発想で考えられるといい。急な坂らしい企画を期待する。
	H30	・新規事業含め、ニーズを丁寧にすくいあげた企画運営・サポートができており、稽古場としては十分な運営ができていく。今後は、運営体制を十分に確保し、体験型プログラム等、市民の創造性を育むプログラムを増やせると良い。 ・相談室plusや新規がアーティストの応募数も増えており、着実に事業を運営している。 ・運営の継続性を意識し、現在の人件費が適正か、業務内容や業界水準を考慮し見直すべき。
	H29	・稼働率も安定しており、稽古場として着実な運営ができていくとともに、スタッフにアーティストなどを起用することにより、利用者目線での運営を実現している。また、アーティストの不定期な働き方や産休・育休等、ワークライフバランスにも配慮していることが評価できる。 ・日本舞踊家による小学生向けワークショップを実施するなど、これまで以上にクリエイティブ・チルドレンに資する事業に積極的に取り組んでいる点は評価できる。

令和4年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	文化芸術創造発信拠点（BankART1929）	基本方針	(1) 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと (2) 他都市及び国際的なネットワークの構築 (3) さらなるBankARTの経済的な基盤の確立 (4) 創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり
運営期間	平成30年度～令和6年度（5年目／7年間）		
運営団体	特定非営利活動法人 BankART1929		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	仮評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1 経済的な基盤の確立	1 全体事業収支			
	2 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率			
	3 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等)の内訳と比率			
2 施設の維持管理状況	1 施設の管理状況			
	2 施設の修繕・改善状況			
	3 安全対策			
	4 その他			
・BankART Station（隣接する道路区域を含む） ・BankART KAIKO ・その他				
3 運営体制・労務管理	1 スタッフの配置状況(役割・人数)・勤務体制・待遇			
	2 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
4 広報・発信	1 先駆的な創造活動の国内外に向けた発信強化			
	2 各事業の効果的な広報活動・情報発信			
	3 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
	4 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			

※自己評価のチェックについて:取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	仮評価	
評価軸	自己評価				委員会評価	
1	地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと	1	<ul style="list-style-type: none"> アーティスト・クリエイターの育成支援や横浜への定住・定着を促すことを主な目的とした短期滞在型アーティスト・イン・レジデンス事業 	<ul style="list-style-type: none"> スタジオ事業 AIRの開催(オープンスタジオの開催) 横浜台北交流事業 台北との交換AIRの実施 		
		2	<ul style="list-style-type: none"> 横浜で活動するアーティスト・クリエイターや企業・事業者・市民等と連携した街の活性化に寄与する事業 	<ul style="list-style-type: none"> みなとみらい21地区全域にまたがるプログラム(提案中) インディーズ2022(18区展開) スクール事業 みなとみらい物語(周辺企業等を講師に招聘) カフェ・ショップ事業 カフェ:親しみのある空間構築 ショップ:通販システムの検討 		
		3	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の成果発信及び最先端の文化芸術に市民が触れる機会の提供等を目的とした様々なプログラム 	<ul style="list-style-type: none"> 主催企画展 鷲見和紀郎氏、北島敬三氏、安土修三氏等の企画展の開催 UNDER35の開催 コーディネート事業 YPAM、卒展、企業展など スクール事業 年間25講座開催 アーカイブ公開の本格的な推進 コンテンツ事業 各企画展のカタログ発行 オリジナルコンテンツ書籍発行 		
2	他都市及び国際的なネットワークの構築	1	<ul style="list-style-type: none"> 主催事業 横浜台北交流事業 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 台北市との芸術家相互派遣プログラム 台北との交換AIRの実施 その他 統・朝鮮通信使 瀬戸内プログラムの実施(瀬戸内国際芸術祭) 妻有オープンスタジオの実施(妻有大地の芸術祭) 		
3	創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり	1	<ul style="list-style-type: none"> 主催事業・スタジオ事業 コンテンツ事業 その他 	<ul style="list-style-type: none"> 主催事業・スタジオ事業 UNDER35の開催 AIRの開催(オープンスタジオの開催) コンテンツ事業 UNDER35 作家のカタログ制作サポート その他 AIR参加アーティストの周辺への誘致 ショップの通販システムの検討 		

総評		【市の取り組むべき事項】
----	--	--------------

これまでの総評	R2	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍や施設再編など大きな変化があった中、一部実施できなかった事業もあるが、助成金の積極的な獲得や鉄道事業者との連携による駅舎の活用、海外からのリモートによる作品制作など、多様な取組やチャレンジにより多くの事業を実現できたことは評価できる。 みなとみらいの企業等との交流の足掛かりはできているので、キング軸形成のサポートや増加するアミューズメント・ミュージアム機能のつなぎ役を担うことも期待したい。 コロナ禍でデジタルシフトが促進されたことに鑑み、オンラインの活用にも力を入れ、リアルとオンラインの併用により、市民への情報発信や新たなファン層の獲得につなげていくことを期待する。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> 分散型施設の本格的な運営初年度かつ、コロナも重なり非常に厳しい条件の中、施設の再編成に着手するなど、今後の安定した運営に向けた取組に尽力されている点が評価できる。 stationにおいて、鉄道会社、駅舎との協調や道路使用上での工夫がみられるほか、みなとみらいに立地する企業や学校との連携が着実にできており、様々な可能性を広げている点が高く評価できる。 客観的に推移・経年変化を把握できるよう、事業の内容や経費などをデータで蓄積し、今後の運営に生かすことを期待する。 リスクマネジメントの観点から、不慮の事態に備えた体制づくり、人材育成を進めていくことを期待する。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> 新しい拠点となって1年目であったが、移行期をうまく乗り越えた。新旧の街に分散して拠点を持つことになったことに対し、ソフト的な意味でのネットワークから各施設をどのように活用していくかまで、新しい可能性を含めて見えてきたことは評価できる。 Stationは横浜高速鉄道や道路局との調整の結果、よいスペースを作り上げることができた。事業についても、集客数が大きく落ちることはなかった。各拠点の特徴を生かした今後の展開に期待が持てる。 工事費・整備費等で予想外の支出があったものの、収支を合わせられたことは評価できる。
	H29	

令和4年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	象の鼻テラス	基本方針	①創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する ②象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す
運営期間	令和2年度～令和6年度		
運営団体	株式会社ワコールアートセンター		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	仮評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1 無料休憩スペース/ 観光インフォメーション運営	1 市民に開かれた無料休憩スペースを運営			
	2 観光インフォメーションの運営			
	3 利用者の利便性向上に資する取組			
2 運営体制	1 スタッフの配置状況(役割・人数)、勤務体制			
	2 緊急時の体制			
	3 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
3 施設の維持管理	1 施設の維持管理状況			
	2 施設の小規模修繕・改善状況			
	3 安全対策、安全管理体制			
4 広報活動	1 象の鼻テラス及び各事業の効果的な広報活動・情報発信			
	2 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
	3 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			
	4 海外を意識した情報発信(バイリンガル対応等)			

※自己評価のチェックについて：取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

II 創造性／政策達成評価		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	仮評価	
評価軸	自己評価				委員会評価	
1	創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する	質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する事業 <input type="checkbox"/> 新規性・独自性の高い活動並びに象の鼻地区の特性を生かした国際性の高い事業の展開 <input type="checkbox"/> 多様なアーティスト、クリエイターへの活動の場の提供 <input type="checkbox"/> 多様な文化芸術活動主体との連携	PORT JOURNEYS			
			ゾウノハナバレエプロジェクト			
			協力事業／フランス月間			
	2	まちづくり、賑わいづくりに資する事業 <input type="checkbox"/> 都市文化観光への寄与 <input type="checkbox"/> 都心臨海部の立地環境、歴史性を意識した企画・活動	ZOU-SUN MARCHE			
			PORT JOURNEYS/weTREES TSURUMI プロジェクト			
	3	市民にとってより身近で開かれた事業 <input type="checkbox"/> 市民参加プログラム、教育プログラムの充実 <input type="checkbox"/> 市内教育機関、文化施設等との連携 <input type="checkbox"/> ガイドボランティアの自立性強化	Atelier ZOU-NO-HANA			
			ETB(エレファント・トラベル・ビューロー)			
ダンス縁日 スナックゾウノハナ						
4	協力事業 <input type="checkbox"/> 横浜市主催事業、横浜市の政策に沿った事業、創造界隈拠点と連携した事業等との協力・連携	スローレーベル/ヨコハマ・パラトリエンナーレ				
		その他協力事業				
5	館内作品展示業務 <input type="checkbox"/> 日常的に質の高いアート作品・映像作品の展示 <input type="checkbox"/> 利用者に対する観覧案内・サポート	展示壁を中心とした長期展示 ・ZOU-NO-HANA GALLERY SERIES ・PORT JOURNEYS				
6	便益施設(カフェ)運営 <input type="checkbox"/> カフェからの積極的な文化発信	・オリジナルイベントの開催 ・文化芸術事業との連動				
2	象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す	公共空間の活用 <input type="checkbox"/> 象の鼻パークとの一体的活用・ノウハウの蓄積 <input type="checkbox"/> 象の鼻地区の魅力を上向きさせる活動	フューチャースケープ プロジェクト			

総評		【市の取り組むべき事項】
----	--	--------------

これまでの総評	R2	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、基本方針の達成に向けて様々な工夫の中で事業を進められてきたことは高く評価できる。 ・事業の選択と集中が進んだことで洗練されてきており、特に、市民参加型を中心とした事業は、象の鼻テラスらしい個性が明確になってきている。 ・体制や事業内容は充実してきているが、事業運営の方法等の工夫の余地はまだあるため、現状の手法にこだわらずにチャレンジしてほしい。
	R1	<ul style="list-style-type: none"> ・国有地、港湾施設として制約が多い施設運営にもかかわらず、市民を対象とした質の高い多彩なプログラムを実施し定着させている。10年間に築き上げた実績は大きい。 ・これからの5年、10年を見据えたうえでフューチャースケープ・プロジェクトのような意欲的なプロジェクトを実施し、新たな可能性と方向性を見つけたことは評価できる。 ・アート・プログラムのターゲットがなかなか絞り込めないという難しさがある中で、市民に開かれたプログラムを着実に実施してきている。
	H30	<ul style="list-style-type: none"> ・港にあることの特質や市民への開放性など、象の鼻テラスらしさのある企画が行われている。 ・10年という時間をかけて象の鼻テラスというブランドが確立されている。ここにしかない、かつ、市民が開かれた空間が、市民からの提案という形で実現する可能性があることが、他の拠点と違う特徴であり成果である。 ・分科会で出た課題についてはきちんと改善・向上するよう努力されており、少ない人数でしっかり運営していることは評価できる。
	H29	<ul style="list-style-type: none"> ・無料休憩所の運営と文化観光交流拠点の運営の両立という難しいミッションのもと、総合的に質、量ともにレベルの高いプログラムを実施している。 ・事業者の努力により、運営における人員体制は改善されてきている。 ・フューチャースケーププロジェクトは、これからの象の鼻テラスにとって重要なプロジェクトなので、市とワコールとの両輪で進めてほしい。市民との話し合いもキックオフイベントの1回だけでなく、続けていけるとよい。また、その成果も公開するなどして、なるべく多くの市民と共有できると良い。

令和4年度 事業評価シート

【基本情報】

拠点名称	THE BAYS(旧関東財務局横浜財務事務所)	基本方針	①関内・関外地区における創造産業の集積をさらに推進し、これを横浜経済の活性化につなげる ②旧関東財務局の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る
運営期間	平成28年度～令和12年度		
運営団体	株式会社横浜DeNAベ이스ターズ		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	仮評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1 施設の運営状況	1	文化財の価値を損なわず、建物の歴史を生かした活用を行っているか？		
	2	コミュニティスペースがクリエイター・企業等の交流の場として十分利用されているか？		
	3	3階会議スペースがラボ会員等に十分利用されているか？		
	4	事業計画協定書における事業計画を基本に、事業目的に適った運営がなされているか？		
2 広報活動	1	施設及び各事業の効果的な工法活動・情報発信が行われているか？		
	2	創造都市横浜のPRにつながる工夫がなされているか？		
	3			
	4			
3 施設の維持管理	1	施設を法令順守して維持管理しているか？(特に文化財として)		
	2	施設の変更や修繕について決められた通り報告しているか？		
	3	利用方法の変更などについて事前に報告・相談をしているか？		
	4	安全対策、安全管理をしっかりとした体制で行っているか？		

※自己評価のチェックについて：取組に対する姿勢や成果を自己分析し、10段階で記載すること。目標に対して、概ね良好を「5」とし、目標以上の成果が見込めたものを「6」～「10」、目標を下回ったものを「1」～「4」の範囲で、記載する。

Ⅱ 創造性／政策達成評価		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	仮評価	
評価軸	自己評価				委員会評価	
1	関内外地区における創造産業の集積をさらに推進する	1	スポーツ×クリエイティブというコンセプトを体現する活動、事業等を総合的に実践できたか？	今年も下記4つの軸でイベントを実施し、網羅的に、スポーツ×クリエイティブを体現する。 軸①Next Ballpark Meeting 軸②ビジネススクール/子供向けアカデミー 軸③観光プロジェクト 軸④スポーツ×〇〇イベント		
		2	新たなイノベーション・創造産業の創出・集積に向けた活動が進んでいるか？(創造産業創出にかかる人材等の集積や出口の創出に向けた活動が進んでいるか？)	横浜スタジアムをCSLの会議室として活用し、市民に向けたコミュニティホールパークを目指すとともに、多くのステークホルダーの方が集まれる場を拡大していく ビジネススクールでは起業意識が高いビジネスマンや、スポーツビジネスに興味がある方を集積し、イノベーターの発見・育成をしていく		
		3	創造界隈のクリエイター、企業、大学、市民、行政との交流・連携が促進されているか？	子供向けアカデミーでは、関内外で活躍するクリエイターやCSLの会員とコラボし、継続的な交流・連携を促す。		
2	本施設の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る	1	日本大通り地区の賑わい創出に貢献しているか？	コロナ禍においてニーズが高いランチタイムでのオープンテラスや中庭への集客に力を入れる		
		2	日本大通り地区の事業に参加・協力しているか？	日本大通り活性化委員会への参加/その他日本大通り沿いのイベントに参加する		
		3	スポーツ×クリエイティブという視点から、創造界隈の形成や関内外の活性化にも活動を広げているか？	ビジネススクールでは関内外の活性化をテーマとした解決策を参加者とともに検討していく。 観光では引き続き、THE BAYS.日本大通りという枠を超えて関内外や横浜のまちを楽しんでいただくプログラムを創り出す		

総評		【市の取り組むべき事項】
----	--	--------------

これまでの総評	R2	コロナ禍において、事業自体が中止・延期となる施設も多い中で、オンラインや運営団体の工夫を通して、活動を継続し、かつ発展させてゆくことができた点はよかったと思われる。今後、こうした活動の認知・発信を強化するためにも、公民連携を通じて各方面からアプローチするとともに、横浜スポーツタウン構想を始めとして、地域や地域のクリエイター、他の拠点等との連携を通じて活動を発展させていただきたい。
	R1	・4年目を迎えて、活動としては非常に活発化しているが、創造産業に関する活動のアウトプットが不足している。外部との連携も踏まえた創造産業の集積の促進と発展に向けて頑張ってもらいたい。 ・内部の活動を外に見える化していくためにも、中庭の活用など、官民連携して行ってほしい。
	H30	・創造産業の集積に対する取組みを行っており、成果が会員数の増加などの数字に表れている。 ・新規の取組みへの投資もしながら健全経営をしている。 ・ACYや市との協働も行っており、昨年度の課題を受け止め、それを丁寧に実施している。
	H29	・入口としての取組は、数多く実施しており評価できる。 ・今後さらに、活用事業者と市の協力(及び他の拠点との連携)により、アウトプットの発信・販売戦略等を協力して練り、各取組を創造産業の創出・集積という出口につなげていく必要がある。